



日本小児病理研究会 会報54号

平成23年6月6日(月)

1. ごあいさつ

総務幹事 横山繁昭(北海道立子ども総合医療・療育センター)

あの未曾有の大震災後、3ヶ月になろうとしています。福島原発事故も現在進行形で何時おさまるとも知れず、不安を抱えて日々を送っていますが、皆さまにおかれては如何お暮らしでしょうか？とりわけ北條 洋先生、武山淳二先生をはじめとした被災地に居られる会員の諸先生には心からお見舞い申し上げます。また、犠牲になられた皆様におかれては衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

日本民族の懲りない根性は、喉元過ぎれば悪いことは忘れて同じ誤ちを繰り返すことと警鐘を鳴らす人も居ます。原発もこれまで度々事故が繰り返されてきて今回のような大事故に繋がったのですが、狭い国土にとってこれ程取り返しのできないことになるとは！それもこれも長年築き上げられてきた安全神話の崩壊が、産・学・政・官・報道による巨大な癒着構造から生まれた人災によるものとは！正しい事を警鐘するのはいつの時代でも少数意見のようですね。

さて、今年の病理学会でのコンパニオンミーティングは昨年に既に参加しないことを決定しておりましたが、結果的にはそれも中止になってしまいました。

3月に、震災直後に今年の「小児病理研究会」会長の岸本宏志先生（埼玉小児医療センター）から、まず、こんな年に学会をやってもいいのか？ そもそも9月初めの猛暑時で計画停電なども考えるとスライドも使えない等々も考えられ、延期または中止も考えなければならぬと連絡が入りました。その後、電力事情もやや好転の方向にあり、講演や演者をお願いしていた諸先生のこともあり、できるなら予定通りに9月3日に横浜で「第31回小児病理研究会」を開催しようと岸本会長が決断して、幹事の諸先生の賛同を得て今日に至っております。

4月23日号の「医学のあゆみ」で児玉龍彦先生が2009年の記事を再録した「チェルノブイル原発事故から甲状腺癌の発症を学ぶ」の中で小児甲状腺癌の増加の原因をめぐる論争について、アメリカ型のメガスタディからはエビデンスが得られず、むしろ稀な極端な症例の発表からはじまってエビデンスをつかんでいった事実からこのような症例報告の発表の重要性が述べられております。このことを我々も症例発表の教訓にすべきと考えます。それから、こんな時であるから、むしろ積極的に学会に関わろうではありませんか。

今回の主題は「小児消化器疾患（炎症性腸疾患を中心に）」ですが、主題以外にも沢山の演題をご応募下さい、小児病理セミナーおよび前日開催の2011年小児腫瘍分類委員会症例検討会も多数のご参加が期待されます。詳細は本会報および「病理と臨床」ならびに病理学会会報に掲載されます。

また、なにか今回の学会で取り上げて欲しいこと、アイデアがあれば私又は岸本会長の方へご連絡下さるようお願いいたします。

2. 幹事選挙のお知らせならびに投票のお願い

本会規約により常任幹事の改選（4名）を行います。同封の投票用紙の投票欄に4名まで○を記し、同封の封筒にて事務局宛にご返送下さい（返送用の封筒には会員確認のためお名前をご記入下さい）。5名以上記入した場合は無効投票となりますのでご注意ください。投票締め切りは2011年7月10日です（消印有効）。なお、改選幹事（藤本純一郎、北條洋、岸本宏志、森川征彦）、留任幹事（井上健、松岡健太郎、宮内潤、横山繁昭）、および名誉会員・65歳以上の会員には被選挙権はありませんのでご注意ください。

3. 第31回小児病理研究会のお知らせ

世話人： 岸本宏志（埼玉県立小児医療センター 病理診断科）
日時：2011年9月3日（土） 9時～15時（予定）
場所：神奈川歯科大学横浜研修センター 大会議室
交通：横浜駅（JR・東急・京急・相鉄・横浜市営地下鉄等）下車
徒歩5分
参加費：3000円
主題：小児消化器疾患（炎症性腸疾患を中心に）
特別講演：岡安 勳先生（北里大学医学部病理学 教授）
潰瘍性大腸炎の病理：病態理解のために（仮題）
教育講演：横山 薫先生（北里大学東病院 消化器内科）
潰瘍性大腸炎の最近の知見（仮題）



神奈川歯科大学横浜研修センター

東日本大震災による電力事情の不安定なこともありますので、当日はクールビズでご参加ください。

〔演題申し込み〕

演題名（主題か一般演題かを明記）、出題者、所属名、抄録（200字程度）を下記のメールアドレスにお送りください。

郵送にてお申し込みの場合は抄録のCD-Rも添えて下記住所宛にお送りください。

発表形式は：Microsoft Office Power Point 2007 (Windows)を予定しております。

Macをご利用の方はその旨を申し込み時にお知らせください。

締め切り 2011年7月22日 必着

抄録送付先：〒 339-8551 さいたま市岩槻区馬込2100

埼玉県立小児医療センター病理診断科 岸本宏志

E.mail: kishimoto.hiroshi@pref.saitama.lg.jp

4. 第8回小児病理セミナーのお知らせ

第8回小児病理セミナー（先天性肺疾患）

主催：日本小児病理研究会

日時：2011年9月3日（土） 16時～18時（予定）

場所：神奈川歯科大学横浜研修センター 大会議室

対象：小児病理医 小児外科医 呼吸器外科医 ほかに

参加費：3000円（ハンドアウト 軽食）

（小児病理研究会参加者は2000円）

参加申し込み・お問い合わせ

〒 339-8551 さいたま市岩槻区馬込2100

埼玉県立小児医療センター病理診断科 岸本宏志

TEL: 048-758-1811(内 3241)

E.mail: kishimoto.hiroshi@pref.saitama.lg.jp

テーマ：先天性肺疾患

講師およびタイトル

1. 林 聡先生（国立成育医療センター 胎児診療科）
先天性肺疾患（胎児診断を中心に）
2. 岡 輝明先生（公立学校共済組合関東中央病院 臨床検査科・病理科）
呼吸器の発生と先天異常の形態学
3. 河端美則先生（埼玉県立循環器呼吸器病センター 病理診断科）
小児嚢胞性肺疾患の病理（気管支閉鎖症とその周辺疾患を中心に）



5. 2011年度日本病理学会小児腫瘍組織分類委員会症例検討会 (小児腫瘍症例検討会)のご案内

恒例の小児腫瘍症例検討会を、第31回日本小児病理研究会の開催に合わせて下記のとおり開催いたします。本会では稀な小児腫瘍や診断困難例のみでなく、典型的な腫瘍も呈示されます。症例のプレパラートを当日も閲覧可能で、その所見をもとに討議する会で、病理医のみでなく、小児腫瘍に関心をもたれている臨床医にも広く公開されています。

今年から、病理専門医資格の更新用点数が認められました(参加5単位、筆頭発表2単位)。

主催：日本病理学会小児腫瘍組織分類委員会

日時：2011年9月2日(金) 13時30分～18時(予定)

場所：

1) 2011年度小児腫瘍症例検討会(例年約25症例)

2) 教育講演：

小田義直先生(九州大学大学院医学研究院形態機能病理・九州大学病院病理部)

「軟部肉腫の遺伝子診断と分子病理学的悪性度」

3) 参加費：1,000円

参加お申し込み・お問い合わせ先：

〒232-8555 横浜市南区六ッ川2-138-4

神奈川県立こども医療センター 病理科 田中祐吉

電話：045-711-2351 E-mail:ytanaka@kcmc.jp

6. 地区集会のお知らせ

第120回 関東東海地区小児病理カンファレンス

2011年10月7日(金)午後5時30分から

於：国立成育医療研究センター

世話人：

国立成育医療研究センター 中澤温子先生

第65回 関西小児病理研究会

2011年7月16日(土)午後1時30分から

於：大阪市立総合医療センター大会議室

世話人：

兵庫県立こども病院 吉田牧子先生

会費納入のお願い

本会規約により、本会会費は年間5,000円となっております。納入状況に応じて、お知らせを入れております。下記振り込み口座にお振り込み願います。会費について不明の点は事務局 松岡までご連絡ください。

ゆうちょ銀行

【店名】008

【店番】008

【預金種目】普通預金

【口座番号】8661284

7. 事務局より

◇第31回小児病理研究会(横浜)でお会いできることを楽しみにしております◇日本小児病理研究会会報は年3回(冬、春、秋)発行、会員全員に送付し、ホームページにも掲載しています。会報、ホームページを通じて、会員相互の情報交換、連絡を行いたい方はE-mailまたはFAXにて事務局へご連絡ください。

日本小児病理研究会会報54号

平成23年6月6日発行

編集・発行 松岡健太郎

日本小児病理研究会事務局

<http://jspp.info/>

〒157-8535

東京都世田谷区大蔵2-10-1

国立成育医療研究センター

病理診断部病理診断科

TEL (03)3416-0181

FAX (03)5727-2879

E-mail matsuoka-k@ncchd.go.jp